

孤独・孤立対策シンポジウムの開催結果について

富山県厚生企画課

1. 日時・開催場所

- ・ 2024年2月21日（水）14:00～17:00 頃
- ・ 富山国際会議場 201、202号室

2. 実施概要

14:00～ 開会あいさつ（富山県厚生部長）

※県の取り組みや実態調査の結果を含めた内容

14:10～ 基調講演

「孤独・孤立問題の現状と対策の方向性」

講師 大西 連 氏（内閣官房孤独・孤立対策担当室 政策参与）

15:10～ パネルディスカッション

「声をあげやすい社会、声をかけやすい社会の実現に向けて」

コーディネーター

大西 連 氏

パネリスト

立瀬 剛志 氏（富山大学学術研究部疫学・健康政策学講座 助教）

堀田 晶 氏（古本なるや店主）

水野 カオル 氏（一般社団法人Ponte とやま代表理事）

参加者

- ・ 現地参加者事前申込数 52名（参加者数 50名）
- ・ オンライン参加事前申込数 54名



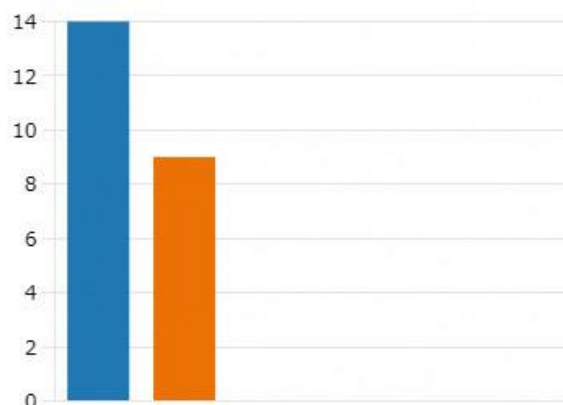
参加者アンケート結果（抜粋）

1. 本日の内容は、貴団体等における孤独・孤立対策の取り組みを推進していくうえで役に立ったでしょうか？

詳細

👁️ インサイト

🟦 たいへん役にたった	14
🟠 まあまあ役に立った	9
🟢 なんとなくいえない	0
🔴 あまり役に立たなかった	0
🟡 まったく役に立たなかった	0
🟤 その他	0



2. 今日の話聞いて、参考になった点があれば教えてください。

- ・ 団体運営、へこたれることもあるが、頑張ろうと思う。
- ・ 居場所作りや、そこに行けば誰かがいるという取り組み、連携の大切さを感じました。
- ・ 最後のパネリストの話し合いが本音と本音の交流がよく伝わってきました。
- ・ 改めて連携の必要性を感じた。
- ・ 場づくりの必要性やいろいろな事例を聴けて良かった。

3. 今日話を聞く前と聞いた後では、どのように孤独・孤立対策に係る意識が変わりましたか。

- ・ 対象者に焦点をあてるのではなく、地域全体を元気にしていくことが大切だと思いました
- ・ つながりを持ち続ける
- ・ 個人の責任だけではないことを改めて認識できた。
- ・ 迷いが増えた。
- ・ いろんなアプローチが必要と考えた。
- ・ 世の中には相談先が見つけれられない、探し方も分からないような、「隠れ孤独、孤独」な人が結構いるのかもしれないなあと思った。
- ・ 自分自身の取り組みがたとえ小さなものであったとしても、そういった取り組みを続ける各種団体が繋がり、それぞれの取組みを知り、活動を展開していくことが、結果として社会全体にいろいろな場所をつくることになるのだという視点が加わりました。
- ・ 現在孤独・孤立の方へ相談研修会も小規模ながら行っておりましたが、他の団体と協働しながら対策に関われることで、団体の孤独・孤立防ぐことにもなりそうです。
- ・ 今回孤独・孤立対策でこういった活動があると初めて知った。まだまだ馴染みの少な

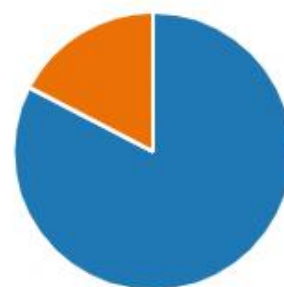
い取り組みだと思うので、もっと広く周知してもらえよう啓発していくことが必要だと感じた。

- ・ 難しい問題ですが、個々から富山県を変える！変えたいと思います！
- ・ 仲間外れにしない。誰一人取りこぼさない、置いてきぼりにしないインクルーシブ社会の実現。そのためにはまず自分の中にある差別や偏見をなくしていかなければならない。これまで自分勝手に壁を作っていたけれどそれをぶち壊していけばいいのかな・・・？
- ・ 基調講演はじめ4人の方の提言や実践を聴いて大きな収穫を得、自分なりの活動をどこかにつなげられたらと思いました。
- ・ 孤独・孤立は難しい点がたくさんあるが、ネットワークが大切だと感じた。
- ・ 具体的なつながりの必要性。
- ・ 特別な事は必要なく、雑談から始めればよいという点が気付きだった。斜めの関係をどのように作っていくのか考えていきたい。
- ・ 孤独・孤立そのものの概念が変わりました。私たちの団体に何ができるかを考えていきたいです。

4. 今後県で設立予定のプラットフォームに参加されたいですか。

詳細

● 参加したい	19
● なんともいえない	4
● 参加したくない	0



5. 設問4の理由を教えてください。

【参加したい】

- ・ 特別なことでなく、我ごとという意識が大切と感じたから
- ・ 「孤独・孤立対策」という共通の切り口から捉えることで、自分自身の取り組みとは異なる別の角度からの様々な取り組みがあることを知ることができ、またその意義を感じることができたから。
- ・ 団体の活動が小規模で、関われるスタッフも少なく、団体自体が孤立してしまいがちな為です。
- ・ やれることがあると思うから。
- ・ 上に述べたように、それぞれの活動をつなげることが喫緊の課題であると思っています。
- ・ 個人でできることはささいであるが、連携することで広がっていくと思われる。
- ・ プラットフォームによるさまざまな活動の視点から包括的に孤独・孤立の向き合い方を考えたい。
- ・ 本団体の目的に、孤食を減らすこと、地域の活力を向上させることで、心身が健康で住みやすい場所を作っていく理念が含まれているため、参加して情報を入手したい。
- ・ 参加予定団体なので。

- ・自殺防止支援を実施している立場にいるものです。居住支援という方向で参加させていただきたい、その他何でも対応できれば
- ・住み（暮らし？）やすさ、生きやすさ、地域の魅力につながる。

【なんともいえない】

- ・これまでも高齢者の通いの場の立ち上げ、継続支援をして来たが、つながりを持ち続ける事が大切と改めて感じたため、途切れない活動を意識したい。
- ・私自身は高齢者と関わる仕事をしているが、高齢者でも孤独・孤立を感じていても介護保険サービス等公的資源を利用したくないという人もいるので、選択肢の一つとして今回聞いた場が身近にあると良いのではと感じたため。